

国史跡首羅山遺跡整備基本構想

Master concept of the preservation of historical site Syurasan ruins

久山町教育委員会

The Board of Education of HISAYAMA TOWN

守り伝えたい

私たちの首羅山遺跡

「私たちの首羅山遺跡」この言葉が示すとおり、
遺跡を守り伝えるのは地域の力です。
周辺の祈りの文化や美しい自然とともに、先人たちから受け継いだ首羅山遺跡。
久山町の歴史の象徴として、これからも地域の手で守り伝えたい、
そんな願いを込めて、本基本構想を策定します。



ごあいさつ

久山町は、150万都市福岡市に隣接する自然豊かな町です。

昭和48年以来、町域の97%を市街化調整区域とする独自の政策に取り組み、豊かな自然を守るとともに、昔ながらの風習や歴史が色濃く残った町です。

首羅山遺跡の調査は平成17年度から開始しましたが、わずか8年という異例の早さで、国指定史跡となりました。このことは首羅山遺跡の文化的価値が高いことを示すものであり、地元上久原区をはじめ、地権者やボランティアグループ、現地での作業に従事された方々など皆様のご支援とご協力のおかげと感謝しております。

また、久山町内の学校においては、総合的な学習「私たちの首羅山遺跡」に取り組むことで、年々子どもたちの地域を愛する心が育まれているように思えます。

今後は首羅山遺跡を貴重な歴史遺産として将来にわたって保存していくとともに、町民に親しまれ、愛される遺跡となるような整備を行い、町民の地域への誇りや愛着の醸成につとめ、まちづくりの一環として取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、本基本構想策定にあたり、ご指導いただきました首羅山遺跡保存整備指導委員会の委員の皆様、ご協力ご指導いただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成26年10月

久山町長 久芳 菊司

序 文

首羅山遺跡は、福岡平野周縁に立地する中世の山林寺院の遺跡として、現在では久山町内外の一般住民の方々はもとより、学界では全国的にも広く知られるようになってきました。

この遺跡に初めて学術的な調査のメスが入りましたのは、去る平成17年（2005年）のことでした。その後、平成25年度まで8カ年にわたって実施された試掘調査の結果、山林寺院の実態解明が大きく進みました。すなわち、山林寺院は平安時代後期に当たる12世紀ごろから、室町時代の15世紀後半ごろにかけて存続し、大きく3時期に変遷していること、最盛期の13世紀後半ごろの第Ⅱ期には、大規模な五間堂建物が建っていたこと、そして、西谷地区には庭園を伴う坊があったことを思わせる遺構があることなど、多くの成果が得られました。

さらに、中国・宋の青白磁刻花文深鉢、朝鮮・高麗の青磁印花文香炉など、舶来の優品や、山頂地区の経塚出土の経筒に墨書された「徐工」銘、同じく山頂地区の薩摩塔・宋風獅子、ならびに、入宋僧・悟空敬念の入山記録などから考えて、首羅山における山林寺院の隆盛の背景に、博多綱首つまり中国の貿易商人や、博多禅僧の関与をうかがわせます。

このような山林寺院の重要性に加えて、遺跡の保存状況の良好さなどから、首羅山遺跡は日本を代表する中世山林寺院として評価され、平成25年には国の史跡に指定されました。そこで、首羅山遺跡の保存と次世代以降への継承を第一義的に考える一方、遺跡の整備と活用の問題が浮かび上がってきました。そのため、久山町では首羅山遺跡保存整備指導委員会を立ち上げ、まずは基本構想の策定に着手したところです。

本基本構想の策定に当たってもっとも留意したことは、本整備事業の検討段階から、町民・研究者や専門家・行政が一丸となって取り組み、町民の活力を生かし、地域が守り続けるという点です。そのことが、町民の郷土への愛着や誇りを醸成し、「健康が薫る郷」の実現にもつながるのです。

平成26年10月

首羅山遺跡保存整備指導委員会

委員長 西谷 正

例 言

1. 本書は福岡県糟屋郡久山町大字久原に所在する史跡首羅山遺跡の整備基本構想を策定した報告書である。
2. 本書の作成は平成26年5月から平成26年10月に実施した。
3. 本書は原案を久山町教育委員会が作成し、首羅山遺跡保存整備指導委員会、文化庁文化財部記念物課、福岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、(株)環境デザイン機構が編集し作成したものである。
4. 本構想の策定にかかる事務は、久山町教育委員会が行った。
5. 本構想に関わる組織の詳細については巻末に記している。

目次

1	整備基本構想の目的	
1-1	背景	2
1-2	目的	4
1-3	基本構想の対象範囲	4
2	首羅山遺跡とは	
2-1	位置	6
2-2	史跡指定地の状況	7
2-3	首羅山遺跡を取り巻く環境	8
2-4	首羅山遺跡の重要性と各地区の特性	11
3	首羅山遺跡に寄せるみんなの思い・夢	
3-1	これまでの取り組み	18
3-2	首羅山遺跡に寄せるみんなの思い・夢	23
4	首羅山遺跡の現状と課題	
4-1	現状	28
4-2	課題	30
5	首羅山遺跡が目指すもの	
5-1	首羅山遺跡の整備が目指すもの	32
5-2	基本理念	33
5-3	時代設定と将来像	34
5-4	整備の基本方針	34
6	各地区の整備方針	
6-1	ゾーニングによる重点的な整備	38
6-2	各地区の整備方針	39
7	整備基本構想の実現に向けて	
7-1	基本的な考え方	44
7-2	スケジュール	44
7-3	情報発信	45
7-4	役割分担	46
7-5	今後の課題	47

付編

首羅山遺跡保存整備体制
首羅山遺跡保存整備指導委員会設置要項
第3次久山町総合計画（抜粋）
アンケート調査結果

本書の概要

本書は、平成25年3月27日に国史跡に指定された中世山林寺院跡首羅山遺跡の保存・活用の指針として策定するものです。

国史跡首羅山遺跡は平成17年度から発掘調査を開始し、僅か8年で国史跡となりました。史跡指定面積は約40ha、本谷地区・西谷地区・山頂地区・日吉（山王）地区などを中心に遺構や遺物が分布しています。首羅山遺跡調査指導委員会の先生方を中心とした調査の結果、平安時代から鎌倉時代を最盛期とする山林寺院であることがわかりました。

本谷地区では五間堂の基壇や礎石が発見され、五間堂を中心とした伽藍が確認されました。西谷地区には山内唯一の窟である観法岩や石鍋製作跡、墓ノ尾と呼ばれる14世紀前後の墓所などが発見され、最深部の平坦地については調査を継続中です。山頂地区には江戸時代につくられた祠と首羅山遺跡のシンボルともいえる薩摩塔や宋風獅子などの南宋期の中国製石造物が鎮座しており、神聖な雰囲気をも今に伝えています。

特筆すべき遺物としては、山頂出土の中国人名のある白山神社経塚出土遺物や、高麗青磁印花文香炉、景德鎮産青白磁刻花文深鉢など12世紀～13世紀の貿易陶磁器の優品があります。

大陸から運ばれた遺物や宋に渡った禅僧、悟空敬念の入山の記録などから、首羅山は大陸色豊かな中世山林寺院であり、大陸への窓口としての北部九州の特質をよく残す遺跡といえます。

このような首羅山遺跡の歴史の解明とともに、国史跡指定への大きな原動力となったのは地域の力でした。

地元からの山の歴史を知りたいという声に始まった発掘調査、自主的な勉強会の発足、ボランティア活動、太鼓劇の創作など、史跡指定前から活発な取り組みが行われました。また、小学校では平成20年度から総合的な学習の時間に首羅山の歴史学習に取り組み、現在は年間30時間の学習を行っています。そうした学習の成果から、卒業制作の壁画「私たちの首羅山遺跡」が生まれました。また、学習成果は「首羅山サミット」、国指定記念イベントでのシンポジウムなどを通じ、町民に向けて発信されています。

首羅山遺跡へのこれまでの取り組みを踏まえ、首羅山遺跡の整備については、遺跡の保存を第一にしながら、町民の力を活かした久山町らしい整備を行います。町民の久山町への愛着や誇りの醸成を目指し、遺跡の保存や歴史の解明だけでなく、遺跡の枠にとらわれない健康づくり、学校教育や生涯学習の場となるよう幅広く多くの方に親しまれる整備を行っていきます。また、整備の検討段階から行政と町民、研究者や専門家が一体となって、地域の活力を生かし、地域が守り続けることができる整備を行い、久山町が掲げる「健康が薫る郷」の実現を目指します。



昭和40年代の首羅山

1

整備基本構想の目的

1 整備基本構想の目的

1-1 背景

先人が守り続けた首羅山遺跡

首羅山は、平成16年度から始まった事前調査時には竹藪に覆われた荒れた山でした。

しかし、地域には首羅山にまつわるさまざまな伝承が残り、この山は開発されることなく守り伝えられてきたのです。

幻の中世山林寺院の発見

昭和40年代に山頂地区で白山神社経塚出土遺物(九州歴史資料館所蔵)が発見され、研究者の間で注目を集めました。町民の方が熱心に調査し、薩摩塔などの発見もありましたが、詳しい山の歴史はわからないままでした。

平成15年、地域からこの山の歴史を知りたいと町の教育委員会に相談がありました。

そこで、翌年にまず山中を歩き、どんなものがあるのかを調べました。真っ暗な竹藪をかきわけ、ボランティアの方に道をつくってもらいながら、調べていくと、建物の柱を支える石や、きらりと光る陶磁器などを発見し、遺跡がよい状態で保存されていることがわかってきました。

そこで、平成17年度から範囲内容確認の調査を開始し本谷地区に主要施設があることを確認しました。平成20年度には九州歴史資料館との共同調査を開始し、本谷地区の発掘調査を開始しました。

明らかになる歴史

調査の進展によって、首羅山遺跡は平安時代後期から鎌倉時代に最盛期を迎えた中世山林寺院であることがわかってきました。また本谷地区では大規模な五間堂の跡や大陸から運ばれた高級な陶磁器などが発見されました。



破壊された山頂の祠・石塔(昭和48年頃 撮影 阿部重信氏)



復元された山頂の祠・石塔(昭和48年頃 撮影 阿部重信氏)



町民による竹の伐採

高まる町民の期待

平成19年度に久山町歴史文化勉強会が発足し、月に1度の勉強会の開催や、見学会の準備・案内、町の文化財めぐりの主催など、首羅山遺跡の普及の中心となっていきました。

地元上久原地区では調査への全面的な協力、見学会の際のコスモスのお出迎えや猪汁のふるまいなどのおもてなしを行っています。さらには、町の太鼓グループが首羅山の開山伝承をテーマに太鼓劇を創作・演奏するなど積極的な取り組みが行われています。

子どもたちの取り組み

町内の小学校では、平成20年度から「本物体験」を合い言葉に、総合的な学習のなかで首羅山の授業に取り組み、現在では年間30時間の郷土学習を行っています。

子どもたちは、首羅山遺跡の歴史を学ぶだけでなく、首羅山サミットの開催や合唱曲「首羅山いつまでも」を制作するなど、町民への発信活動も行っています。

このように、町民のなかで「知りたい」だけでなく、「伝えたい」気持ちが高まってきています。

国史跡指定へ

平成25年3月27日、調査開始からわずか8年で首羅山遺跡は国史跡指定になりました。その背景には首羅山遺跡調査指導委員会の先生方の熱意と、調査・研究によって明らかになった遺跡の重要性、そして、町民や学校の熱心な取り組みがありました。



遺跡見学会のようす



町の太鼓グループによる「首羅山開山伝承」



平成20年度に始まった小学校の首羅山授業



国史跡指定記念イベント「国史跡 首羅山遺跡の現在と未来」

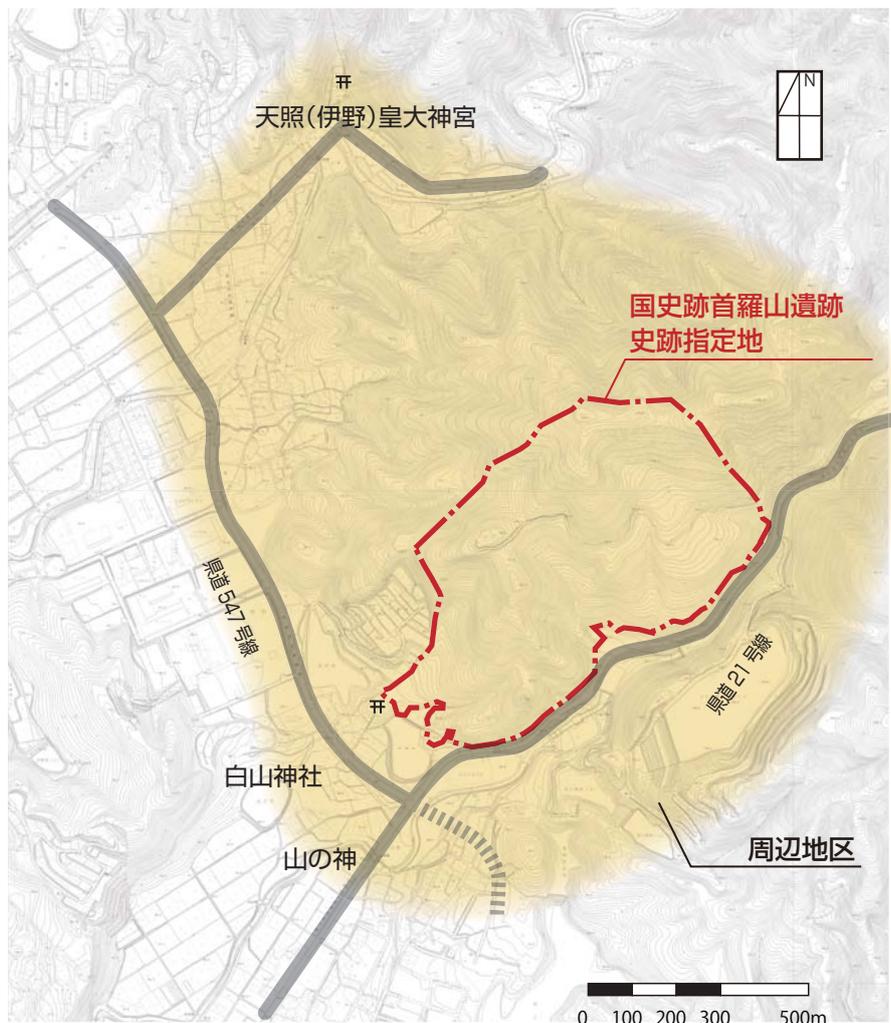
1-2 目的

国史跡首羅山遺跡整備基本構想は、平成25年3月27日に国史跡に指定された、首羅山遺跡の本質的価値を恒久的に保存・活用するために策定するものです。

本基本構想をもとに、首羅山遺跡を学校教育を含めた生涯学習の場に活かし、久山町の歴史の象徴として、これからも地域の手で守り伝えることを目的としています。

1-3 基本構想の対象範囲

今回策定する「国史跡首羅山遺跡整備基本構想」の対象範囲は、全体ゾーニング図に示している、史跡指定地とその周辺地区を対象範囲とします。



全体ゾーニング図



空から見た首羅山

2

首羅山遺跡とは

2 首羅山遺跡とは

2-1 位置

首羅山遺跡は、福岡県糟屋郡久山町大字久原に位置する白山にあります。

久山町は、150万都市である福岡市の東に隣接しているながら人口わずか8,300人余りの、虫が飛び交う自然豊かな町です。町の7割以上を森林が占め、昭和48年には町域の97%を市街化調整区域とする独自の政策をとってきたため、昔ながらの風習や歴史的環境が色濃く残っています。白山は福岡平野の東の端、犬鳴山の麓にある標高288.9mの里山です。標高は低いながらも、博多湾や糸島半島、脊振山系・三郡山系など、福岡平野を一望することができます。



首羅山遺跡の上空から博多湾方面を見る



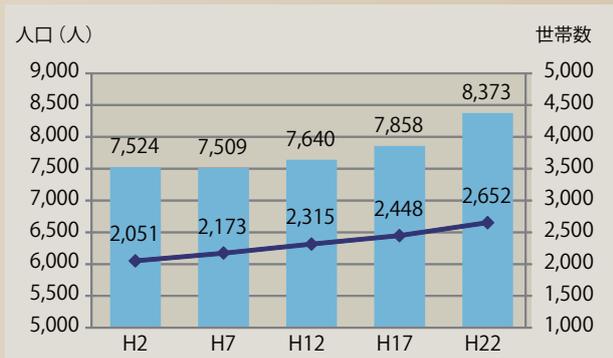
首羅山遺跡のある久山町は人口8,300人余りの自然あふれる町です

久山町

久山町は、南北に連なる糟屋地区1市7町のほぼ中央に位置し、農林業と商工業が共存する町です。

町の人口は平成22年度国勢調査で8,373人となり、微増傾向で推移しています。将来人口推計では、人口は微増傾向が続くことが予想されています。

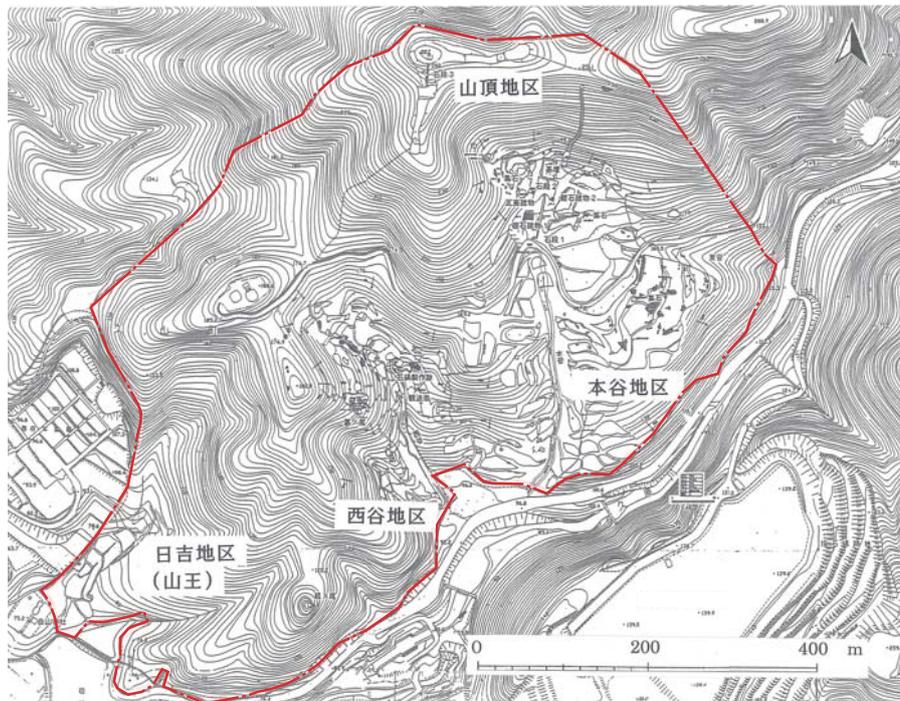
昭和36年から九州大学と連携して健診事業に取り組んでいる「久山町研究」は世界的に有名で、他の町にはない健康づくりのまちとしての実績があります。



久山町の人口及び世帯数

2-2 史跡指定地の状況

平成17年度から調査が始まり、わずか8年後の平成25年3月27日に国指定遺跡となりました。福岡県内の山林寺院の国指定史跡としては2例目となります。首羅山遺跡は約40haの史跡であり、修験で名高い周辺の霊山に比べて小さい山ですが、重要な遺跡であることが認められたこととなります。



史跡指定地の概要

指定年月日	平成25年3月27日	
指定基準	社寺の跡又は旧境内その他祭祀信仰に関する遺跡	
所在地	福岡県糟屋郡久山町大字久原字首羅 136番1外 62筆	
指定等の対象地域の面積	400,637 m ²	
所有関係の概要	国有地	320 m ²
	久山町有地	5,951 m ²
	民有地	394,366 m ² (地権者 88名)
	計	400,637 m ² (地権者 90名)

はくさん しゅらさん 白山と首羅山

現在白山と呼ばれているこの山は、寺院の最盛期であった中世には「首羅山」^{しゅらさん}「須良山」^{すらさん}と呼ばれていました。文献での白山の初見は江戸時代で、「しらやま」といわれていたようです。「首羅山」の名の由来としては、以下のような話が伝わっています。

天平年間に百濟から虎に乗ってきた白山権現が降り立ちました。乗り捨てられた虎の猛威に恐れた村人がその首を切り落としたところ、その首が光りました。そこで村人は羅布(薄絹)に包んで埋め、十一面観音を祀ったことから、首羅山頭光寺といわれるようになったという伝承があります。



現在の首羅山頭光寺

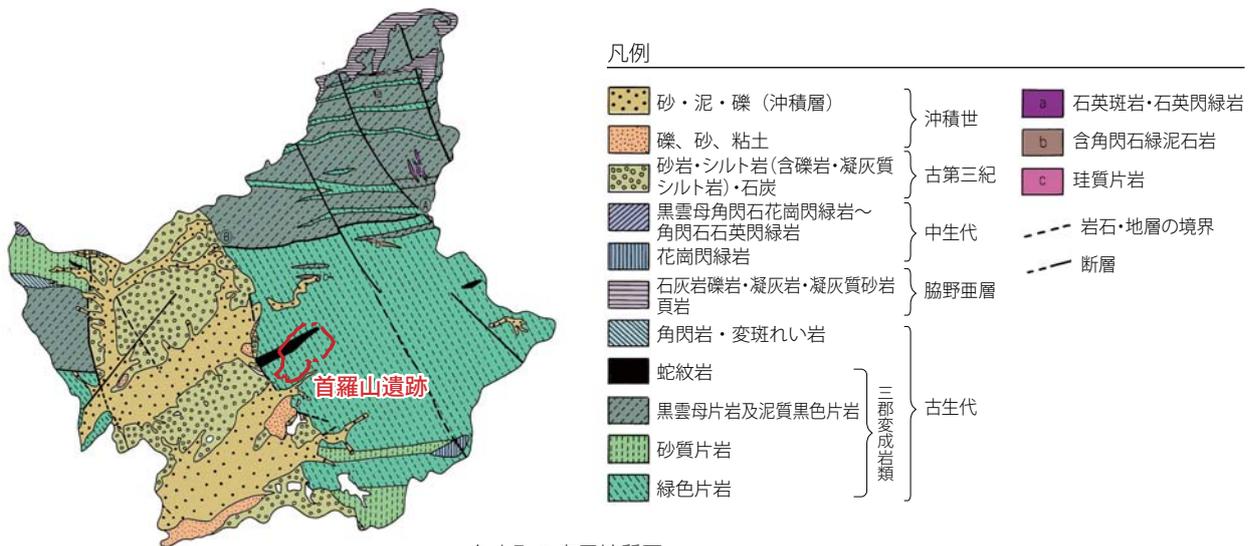
2-3 首羅山遺跡を取り巻く環境

ここでは、保存、整備、活用に関係する自然環境、歴史環境、社会環境を整理しています。なお、地質環境、歴史環境については、「首羅山遺跡発掘調査報告書」の中で詳細に記載されています。

(1) 自然環境

地形・地質

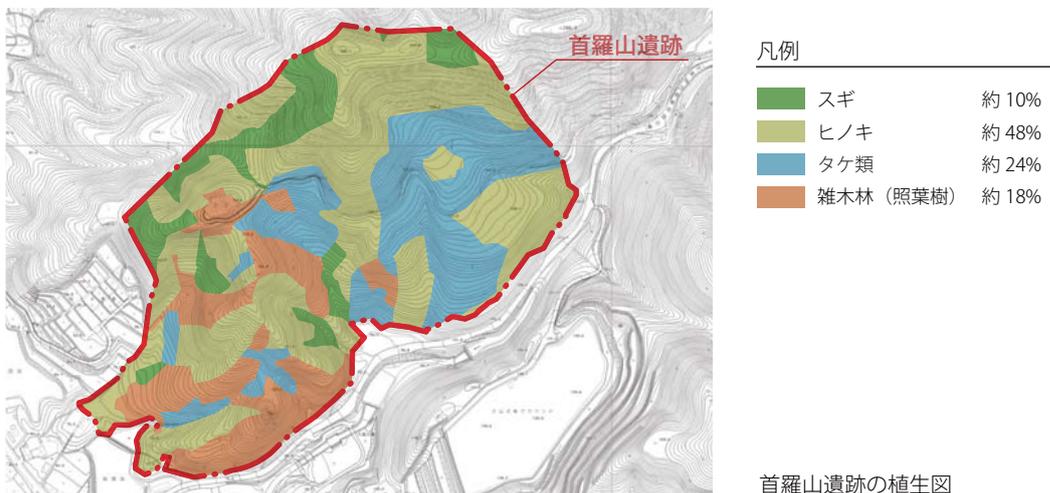
遺跡地の表層地質は、緑色片岩や蛇紋岩からなる三郡変成岩類で構成されており、一部に滑石の露頭も確認できます。岩盤が基盤層であるため、表土は薄く堆積しており、豪雨や突風による倒木などが頻繁に見られます。このような傾斜地の遺跡を守ってきたのは、植物の働きも大きかったと考えられます。



久山町の表層地質図

植生

現在の植生は、大部分がスギ・ヒノキの造林地であり、マダケも群生します。シイ・タブノキなどの照葉樹の雑木林も残り、ヤブツバキやイチヨウ、サンショウやナンテン、ムラサキシキブなども見られます。フデリンドウやエビネ、オモトなども自生します。



首羅山遺跡の植生図

(2) 歴史環境

首羅山遺跡では、縄文時代の遺物なども僅かに発見され、古い歴史があることがわかっています。出土遺物から、最盛期は平安時代後期から鎌倉時代で、当時は「須良山」^{すらさん}「首羅山」^{しゅらさん}と呼ばれていたようです。

古代の首羅山

首羅山遺跡では、山頂地区や西谷地区などで縄文時代の石器が発見されています。また、西谷地区の観法岩付近からは須恵器の破片が見つかっています。こうした遺物の出土から、古くから人々の営みの場であったことがわかります。

古代末から中世の首羅山

山頂から天仁2年(1109年)銘のある白山神社経塚出土遺物が出土していることから、12世紀初頭には寺院があったことがわかります。さらに、山内から出土する遺物には11世紀以前の遺物も含まれており、開山は11世紀以前にさかのぼると考えられます。

12世紀になると本谷地区にも堂宇が建立されます。本谷地区からは、中国景德鎮産や、高麗青磁の高級な香炉の破片なども出土しており、この時期には既に有力な山林寺院であったことがうかがえます。

13世紀後半になるとそれまでの堂宇を1m以上埋め立てるような大造成が行われ、現在の地形がつくられます。ほぼ南北方向を軸にした五間堂が建てられ、伽藍が整備されていきます。山頂地区でも本谷地区と同じ軸線をもつ石段がつくられ、山頂部に大陸系石造物薩摩塔や宋風獅子が安置されます。

またこの時期には、宋に渡った禅僧悟空敬念が首羅山に入山していることや、出土品などから、国際色豊かな山林寺院であったと考えられます。

伝承では最盛期には本谷に100坊、西谷に100坊、別所に100坊、日吉(山王)に50坊の計350坊があったと伝えられます。

近世以降の首羅山

首羅山の山林寺院は15世紀には廃絶したようです。江戸時代に書かれた文献には「棘深し」とすでに荒れ果てた状況が描かれています。五間堂の基壇の上に新しい基壇の痕跡も発掘調査で確認されていますが、その年代は定かではありません。首羅山は近世には宝満山修験の春の峰入りの行場となりました。明治26年の回峰行の際に用いられた股木が首羅観音堂で発見されたことから、近代まで宝満山と密接に関係した山であったことがわかります。

その後は、焚き物取りや竹の切り出しなどが行われる里山であったとともに、かつて寺があったという伝承が人々の間に語り伝えられてきました。

戦後には植林が行われ、電波塔も建設されました。遺跡地の東側に位置する別所地区は採石場であり、採石によってかつての姿はわからなくなりました。

近年では、山の手入れも行われない場所もあり、藪となっていきました。

(3) 社会環境

首羅山遺跡のある地域は様々な規制により開発が抑制されています。第三次久山町総合計画では「自然・歴史文化資源の魅力を活かし都市との交流を広げる地域」における「歴史文化の保全活用」ゾーンに位置づけられています。

規制の状況

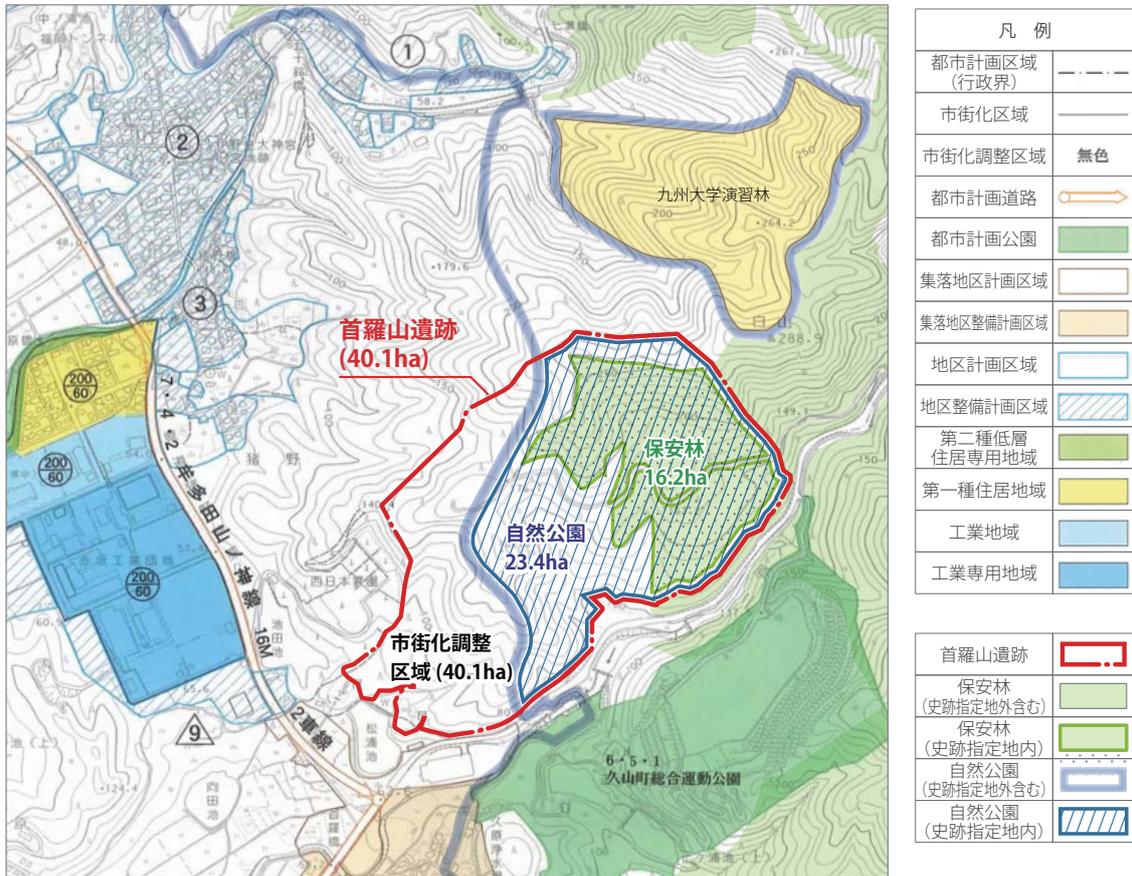
史跡地内には、森林法、都市計画法、福岡県立自然公園条例がかかっています。

- ・ 森林法による保安林（水源かん養保安林） 16.2 ha
- ・ 都市計画法による市街化調整区域 40.1 ha
- ・ 福岡県立自然公園条例による自然公園（太宰府県立自然公園，普通地域） 23.4 ha

周辺の状況

周辺では、観光交流施設、久山町総合運動公園などの整備が計画されています。

北部の猪野地区は、天照（伊野）皇大神宮などの歴史を活かした観光交流の拠点としての取り組みを行っていく予定です。



2-4 首羅山遺跡の重要性と各地区の特性

首羅山遺跡は、中国系石造物や高級な貿易陶磁器の出土、宋にわたった禅僧悟空敬念が入山するなど、大陸色豊かな中世山林寺院です。

博多湾周辺地域には、日本古来の山林寺院の流れを受け継ぐ要素と、国際貿易都市博多を通じてもたらされた大陸的な要素が混在する寺院がいくつかあります。そのなかにあって、首羅山遺跡は、15世紀前半に廃絶したために、中世山林寺院の状況を今に伝える遺跡です。

また、中国人による信仰や、禅宗の導入などが史料や遺跡から想定されるなど日本における中世山林寺院の成立や多様性を知る上でも重要な遺跡です。

遺跡の範囲は山の南東側の斜面約40ha、遺構は、山頂地区・本谷地区・西谷地区・日吉（山王）地区の4地区に分布しています。



本谷地区

指定地の北東に位置します。本谷の谷筋には造成による平坦地があります。谷の最深部では五間堂や礎石建物などを発見し、瓦葺き建物もあったようです。五間堂の周辺には墓地も確認されています。高麗青磁や中国景德鎮産の香炉などの高級な貿易陶磁器も発見され、山の中心施設があった地区です。



本谷地区五間堂周辺



礎石建物(三間堂)



五間堂復元図



三間堂復元図



瓦などの遺物



石段

西谷地区

指定地のほぼ中央に位置します。西谷の谷筋には道の痕跡があり、山内唯一の窟である観法岩（源通岩）や、石鍋製作跡などがあります。墓ノ尾と呼ばれる中世墓地群があり、文保2年（1318年）銘と円覚経が刻まれた板碑なども現存します。谷の最深部の平坦地では石垣や池状遺構を確認し、本谷とは異なる様相の地区です。現在調査継続中です。



水路・池状遺構



西谷地区平坦地と石垣



西谷地区墓ノ尾



板碑



観法岩（源通岩）



滑石製石鍋製作跡

山頂地区

指定地の北側、標高 266m の海に最も近いピークに位置します。天仁 2 年（1109 年）銘と中国人名が墨書された白山神社経塚出土遺物が出土しています。昭和初期まで白山神社が鎮座した山頂付近には、幅 4m、66 段の石段と江戸時代につくられた石製の祠があります。祠の前に鎮座する宋風獅子・薩摩塔などの中国製石造物は首羅山のシンボルとなっています。博多湾まで一望できる眺望の良い地区で、首羅山の聖地ともいえる地区です。



薩摩塔(西塔, 13世紀)



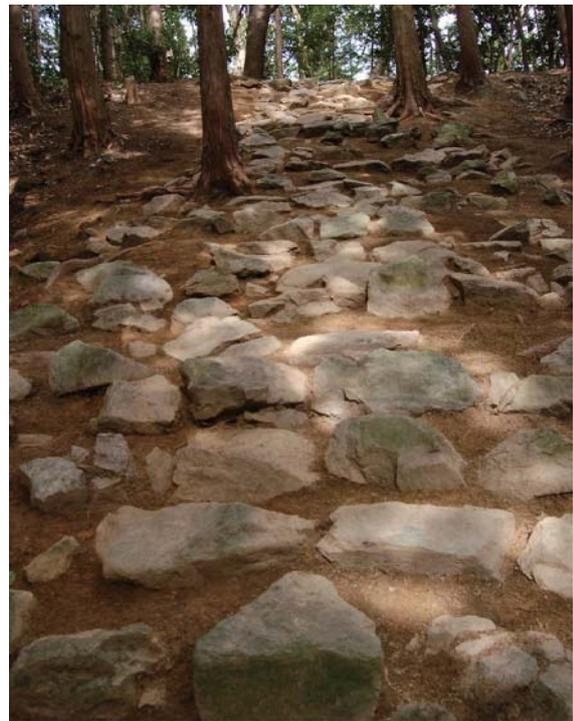
薩摩塔(東塔, 13世紀)



宋風獅子(西側, 13世紀)



宋風獅子(東側, 13世紀)



66段の石段

日吉(山王)地区

指定地の南西の山麓に位置します。現在白山神社が鎮座する日吉(山王)地区は、江戸時代まで山王と呼ばれ、白山への入り口でした。白山神社の裏手には平坦地や石垣が残っています。白山神社は昭和初期に山頂地区から現在の場所に移りました。今も地域の信仰が厚く、年越しの獅子舞や餅まきなどが行われています。この地区は伝承では天正年間まで50坊があったとされ、首羅山の歴史のなかで最後まで坊があった地区です。



平坦地と石垣跡



日吉(山王)地区航空写真



首羅山遺跡に続く白山神社参道



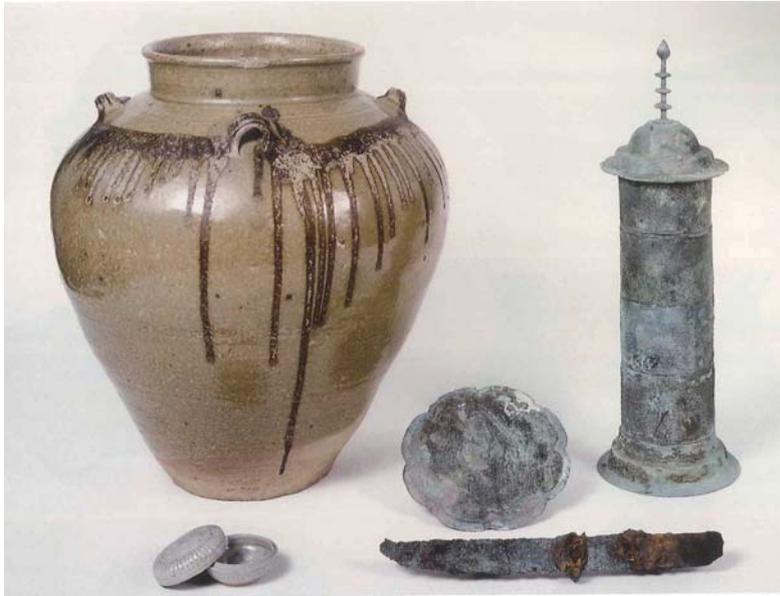
首羅観音堂



首羅山の麓にある松浦池

出土遺物

陶磁器や瓦、石塔片、石鍋等、平安時代の終わり頃から江戸時代にかけての遺物が出土し、特に、平安時代後半から鎌倉時代にかけての貿易陶磁器の出土が目立ちます。本谷地区からは梵字文の軒丸瓦や二重格子の平瓦など 13 世紀頃の瓦も出土し、瓦葺き建物があったことがわかります。出土品には高麗王朝が持っていたものと同じ形の香炉や、中国景德鎮産の香炉などの高級品が含まれており、当時力を持った寺院であったことが伺えます。



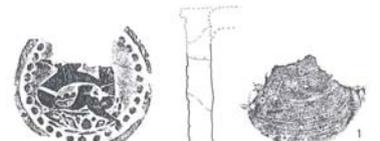
山頂地区から出土した白山神社経塚出土遺物(12世紀、九州歴史資料館蔵)



高麗青磁印花文香炉
(復元, 12~13世紀)



景德鎮産
青白磁刻花文深鉢
(復元, 12~13世紀)



軒丸瓦



首羅山遺跡出土遺物